

AVIC-MRZ06 取付説明書

車への取り付けは、必ずこの取付説明書と取扱説明書の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。

販売店様へ

接続、取り付け作業が完了しましたら、この取付説明書はお客様へお渡しください。

※ 別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も併せてご覧ください。

パイオニア株式会社

〒212-0031

神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

© パイオニア株式会社 2013

< KFWZ13I > < CRA4755-A >

作業の進めかた

①はじめに

- 接続・取り付け部品を確認する 2

②接続のしかた

- 接続の前に知ってほしいこと 4
- 接続端子の名称と働き 6
- システムの接続 7
- 電源コードの接続 (1) 8
- 電源コードの接続 (2) 10
- IP-BUS 機器 /VTR/ リアモニターへの接続 12
- iPod/ 通信モジュール /USB メモリー /AUX の接続 14
- カメラの接続 15

③取り付けかた

- 取り付けの前に知ってほしいこと 16
- ナビゲーション本体の取り付け 17
- ハンズフリー用マイクの取り付け 20
- フィルムアンテナの取り付け 21

④接続・取り付けが終わったら

- 接続・取り付けの確認を行う 27
- バックカメラの設定を行う 29
- サブウーファーの設定を行う 30
- システム設定を行う 31
- センサー学習のエラーメッセージ 32

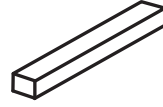
接続・取り付けが終わったら、必ず接続・取り付けの確認～システム設定 (☞ 27～31 ページ) を行ってください。

接続・取り付け部品を確認する

ナビゲーション本体関係



ナビゲーション本体× 1



スペーサー× 1



バインドネジ (5 mm × 8 mm) × 8

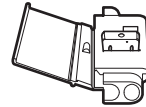


皿ネジ (5 mm × 8 mm) × 8

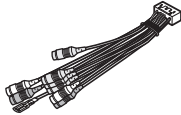
接続ケーブル関係



電源コード× 1

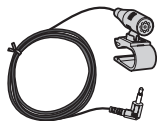


U エlementコネクター× 1



RCA 入出力ケーブル× 1

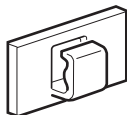
ハンズフリー用マイク関係



ハンズフリー用マイク× 1
マイククリップ× 1

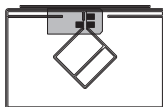


両面テープ (15 mm × 12 mm) × 1

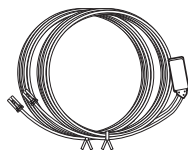


クランパー× 3

フィルムアンテナ関係



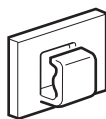
GPS/ 地上デジタル TV (ワンセグ)
複合フィルムアンテナ× 1



アンテナケーブル× 1



クリーナークロス× 1



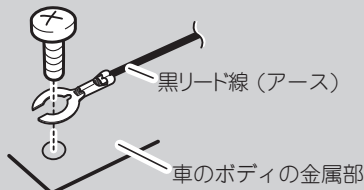
クランパー× 3

接続の前に知ってほしいこと

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

接続上のご注意

- 本機の黒リード線（アース）を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。



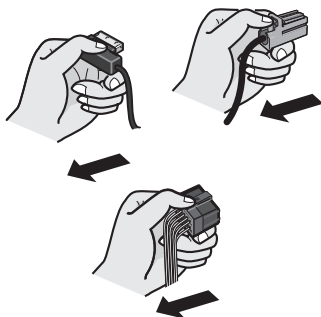
- 本機は、エンジンスイッチにACCポジションがない車では使用できません。絶対に取り付けしないでください。取り付けると、バッテリー上がりの原因になります。
- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には接続しないでください。接続すると車のバッテリーが消耗します。
- 若草色リード線（パーキングブレーキスイッチ）は、必ずパーキングブレーキスイッチの電源側に接続してください。接続しないと一部の機能が使用できなくなります。
- 黒リード線（アース）は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となる恐れがあります。

- 必ず付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障する恐れがあります。
- スピーカーのリード線を直接アースしたり、複数のスピーカーの（-）リード線を、共通にして接続しないでください。
- 本機と組み合わせるスピーカーには、最大入力50W以上のハイパワー用で、インピーダンスが4Ωから8Ωのものを使用してください。規格以外のスピーカーのご使用は、スピーカーやアンプの発火・発煙・破損の原因となります。
- ガラスアンテナ車など、アンテナブースターの電源がある場合、必ず本機の青リード線（アンテナコントロール）を車側のアンテナブースターの電源に接続してください。接続を忘れるとラジオ放送の受信ができません。

アンテナブースターの電源の位置は、車種によって異なります。詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

コネクターの脱着のしかた

- コネクターは、“カチッ”と音がするまで押し込んで、確実に接続してください。
- スムーズに入らない場合は、色が間違っている可能性がありますので、コネクターどうしの色を確認してください。また、無理に挿入しないでください。故障の原因となる場合があります。
- コネクターを外すときは、図のようにコネクター部分を持ってロックを押しながら引っ張ってください。コードを引っ張るとコードが抜けてしまうことがあります。



接続のポイント

ノイズ防止のために

- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - * FM/AM アンテナおよびそのアンテナコードそれぞれのアンテナコードどうしてもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感度が悪くなります。

IP-BUS の接続について

- IP-BUS の端子とケーブルは、同じ色どうしを接続してください。(コネクタの接続部分が色分けされています。) 違う色のコネクタを接続すると、正常に動作しないことがあります。

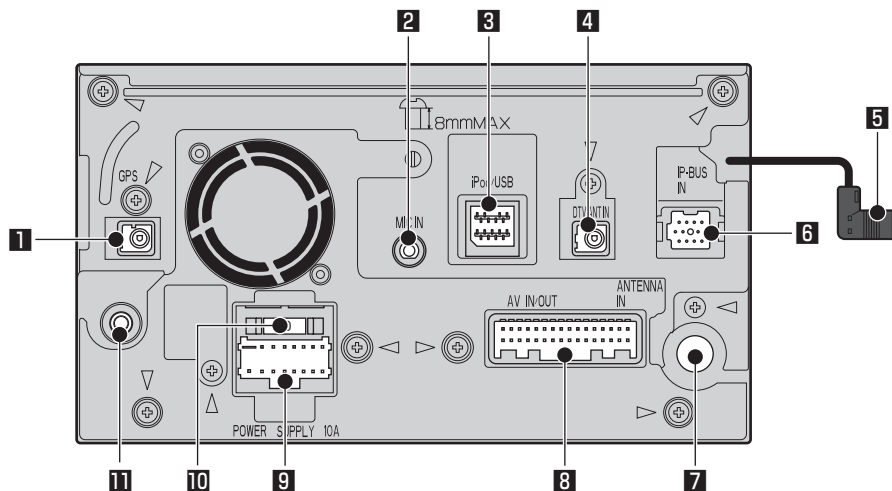
電源配線キットを別売しています

- システム全体の消費電流が大きくなると、電圧が不足する場合があります。そのようなときは、バッテリーから直接電源をお取りください。当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

ピンクリード線の接続について

- ピンクリード線(車速信号入力)は、内蔵の3Dハイブリッドセンサー用のリード線です。必ず接続してください。
- ピンクリード線を接続しない場合は、簡易ハイブリッド方式で動作し、測位誤差が大きくなる場合があります。
- ピンクリード線を車の車速検出回路に接続するのが困難な場合は、車速パルス発生機「ND-PG1」(別売)をお使いください。

接続端子の名称と働き



1 フィルムアンテナ (GPS 用) 接続端子 (緑)

付属のGPS/地上デジタルTV(ワンセグ)複合フィルムアンテナを接続します。
(☞ 7 ページ)

2 ハンズフリー用マイク入力端子 (黒)

付属のハンズフリー用マイクを接続します。
(☞ 7 ページ)

3 iPod/USB 接続端子 (黒)

別売のUSB/AUX 接続ケーブル「CD-UVO20M」が接続できます。
(☞ 14 ページ)

4 フィルムアンテナ (地上デジタル TV (ワンセグ) 用) 接続端子 (茶)

付属のGPS/地上デジタルTV(ワンセグ)複合フィルムアンテナを接続します。
(☞ 7 ページ)

5 拡張入出力端子 (黒)

別売のETCユニットが接続できます。
(☞ 7 ページ)

6 IP-BUS 入力端子 (青)

別売のIP-BUS 機器が接続できます。
(☞ 12 ~ 13 ページ)

7 AM/FM/VICS/FM 多重用アンテナ入力端子

車載のラジオ用アンテナを接続します。
(☞ 7 ページ)

8 映像・音声入出力端子 (白)

付属のRCA入出力ケーブルを接続します。
(☞ 8 ~ 9, 12 ~ 13, 15 ページ)

9 電源端子 (黒)

付属の電源コードを接続します。
(☞ 8 ~ 11 ページ)

10 ヒューズ (10 A)

注: ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

11 ステアリングリモコンアダプター接続端子 (黒)

別売のステアリングリモコンアダプターを接続します。
(☞ 7 ページ)

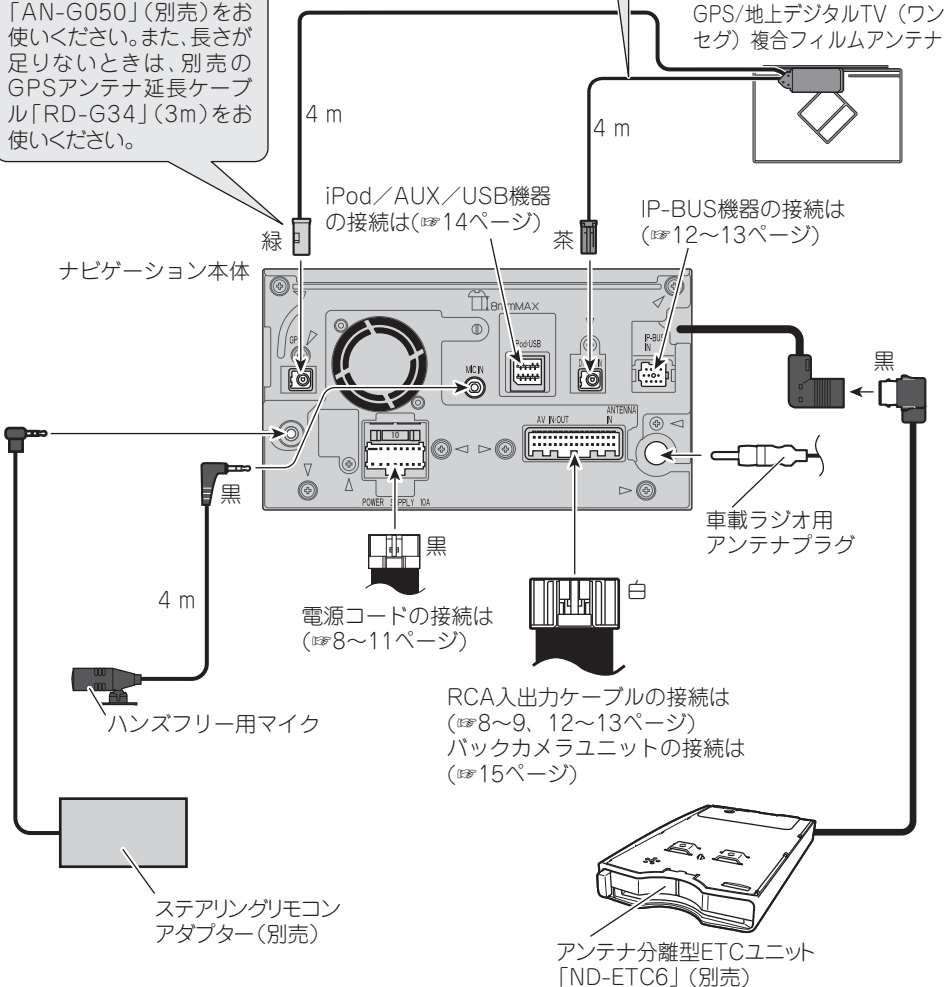
システムの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

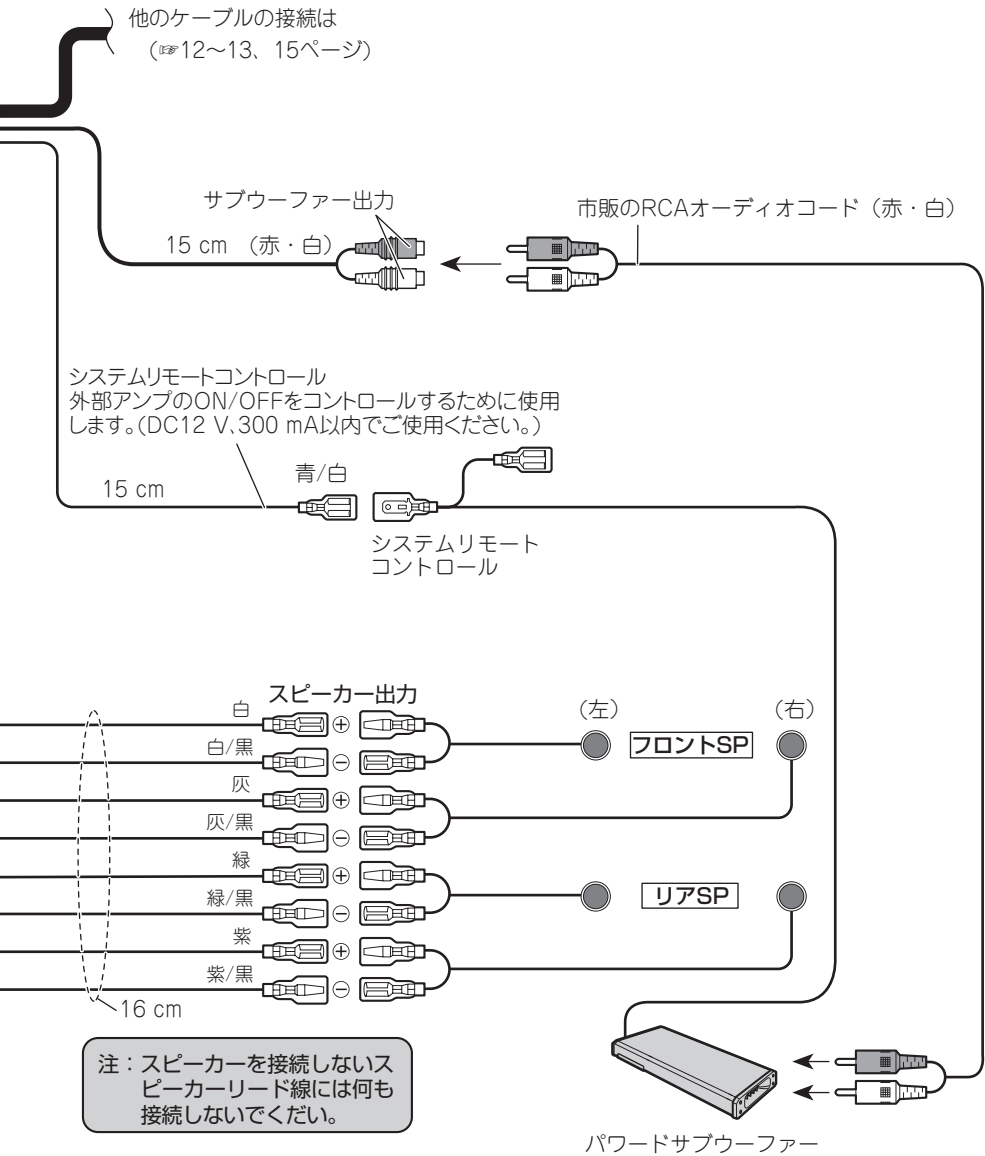
電波を通さないガラスを使用した車種の場合は、GPSアンテナ（車室外取付用）「AN-G050」（別売）をお使いください。また、長さが足りないときは、別売のGPSアンテナ延長ケーブル「RD-G34」（3m）をお使いください。

電波を通さないガラスを使用した車種の場合は、地上デジタルTV用アンテナ（車室外取付用）「AN-GT21II」（別売）をお使いください。

GPS/地上デジタルTV（ワンセグ）複合フィルムアンテナ



接続のしかた



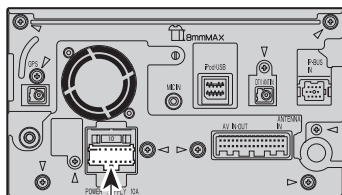
メモ

- サブウーファーを接続したときは、サブウーファー設定を行ってください。(☞ 30 ページ)

電源コードの接続 (2)

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

ナビゲーション本体



電源コード
黒

他のリード線の接続は
(P.8~9ページ)

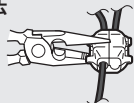
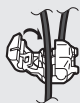
バック信号入力

この接続は車の前進/後退を判断するためのものです。バックランプのリード線の「シフトレバーをリバースの位置にしたときに電圧が変化するリード線」に接続してください。

※接続しないと前進/後退を正しく検知できないことがあるため、自車位置がずれる場合があります。

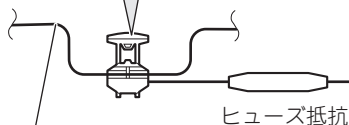
※別売のバックカメラユニットを利用する場合は必ず接続してください。接続しないとバックカメラ映像に切り換わりません。

接続方法



バックランプのリード線をはさみ込む。

ラジオペンチで強くはさむ。



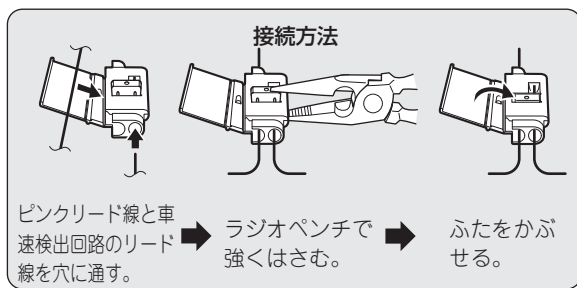
バックランプのリード線

ヒューズ抵抗

紫/白 8 m

若草色 2.1 m

注：電源リード線の、ヒューズ抵抗から本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。



車のインジェクション
コンピューター

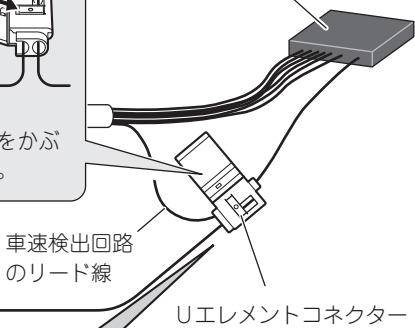
ピンク 3 m

車速信号入力

車の走った距離を検出するために使用します。
必ず車の車速検出回路に接続してください。
(車の車速検出回路への接続が困難な場合は、
車速パルス発生機「ND-PG1」(別売)を接続
することもできます。)

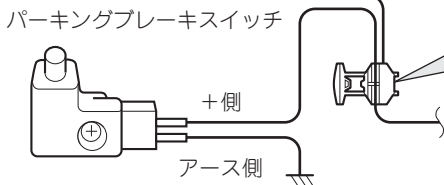
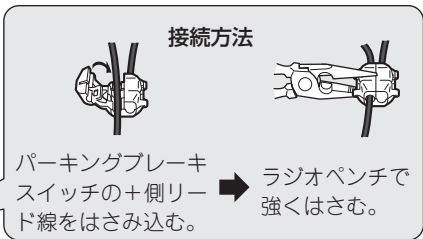
注：必ず付属のUエレメントコネクターを使用してください。指定以外の物を使用すると接触不良の原因となります。

インジェクションコンピューターの車速検出回路の位置は、車種によって異なります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。



パーキングブレーキスイッチ

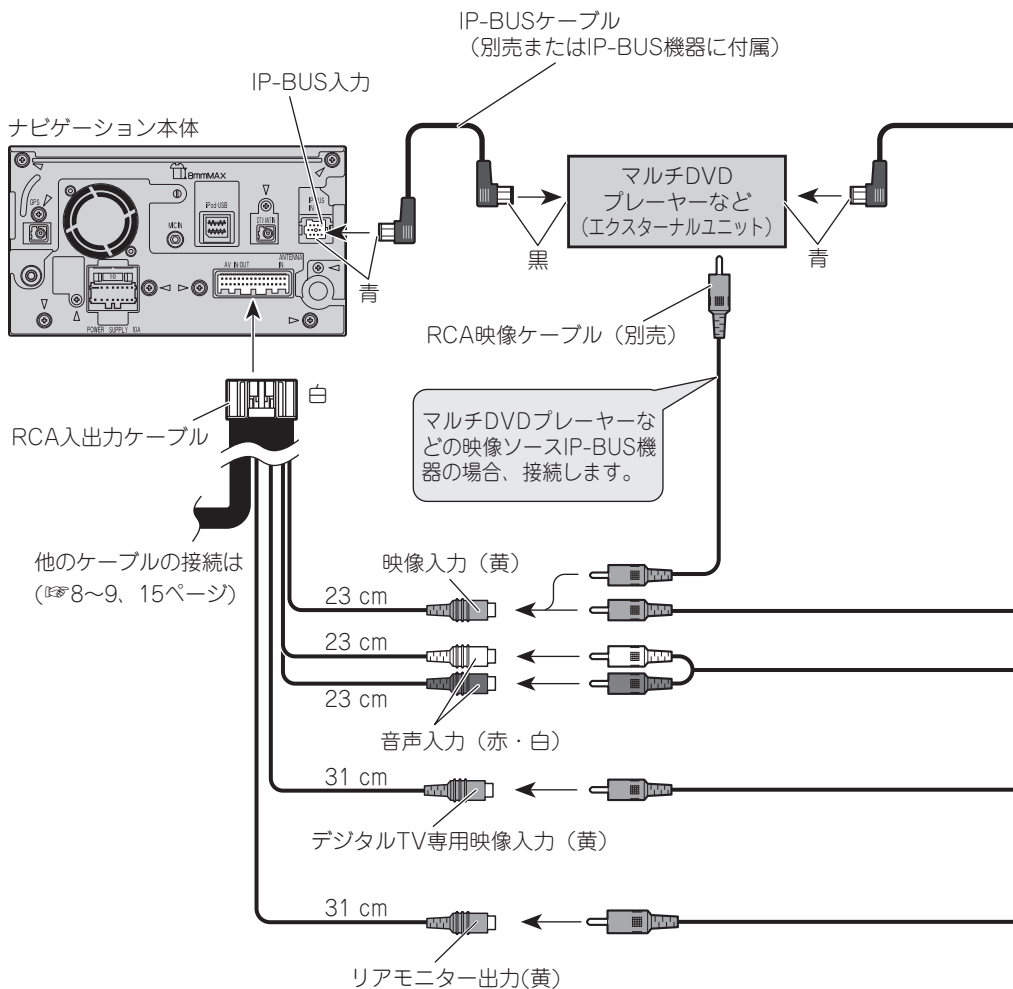
車が停車していることを確認するために使用
します。必ずパーキングブレーキスイッチの
+側リード線に接続してください。





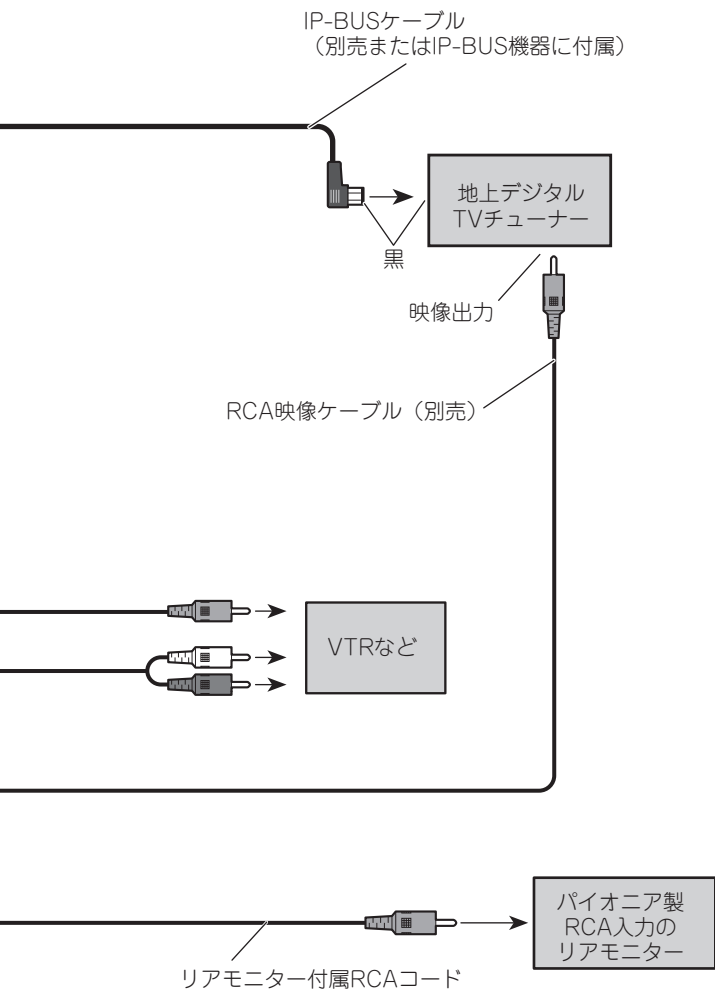
IP-BUS 機器 /VTR/ リアモニターへの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—



メモ

- 本機はマルチ CD プレーヤーには対応していませんので、ご使用いただけません。
- 接続する IP-BUS 機器にモードスイッチがある場合、IP-SOURCE モードに設定してください。詳しくは、IP-BUS 機器の取付説明書をご覧ください。
- エクスターナルユニットは 2 台まで接続できます。なお、本機にマルチ CD プレーヤー (CDX-P シリーズ) は接続できません。
- VTR や映像ソースのエクスターナルユニットを接続したときは、「システム設定」の【映像入力設定】の設定が必要です。(31 ページ)



接続のしかた

⚠ 注意

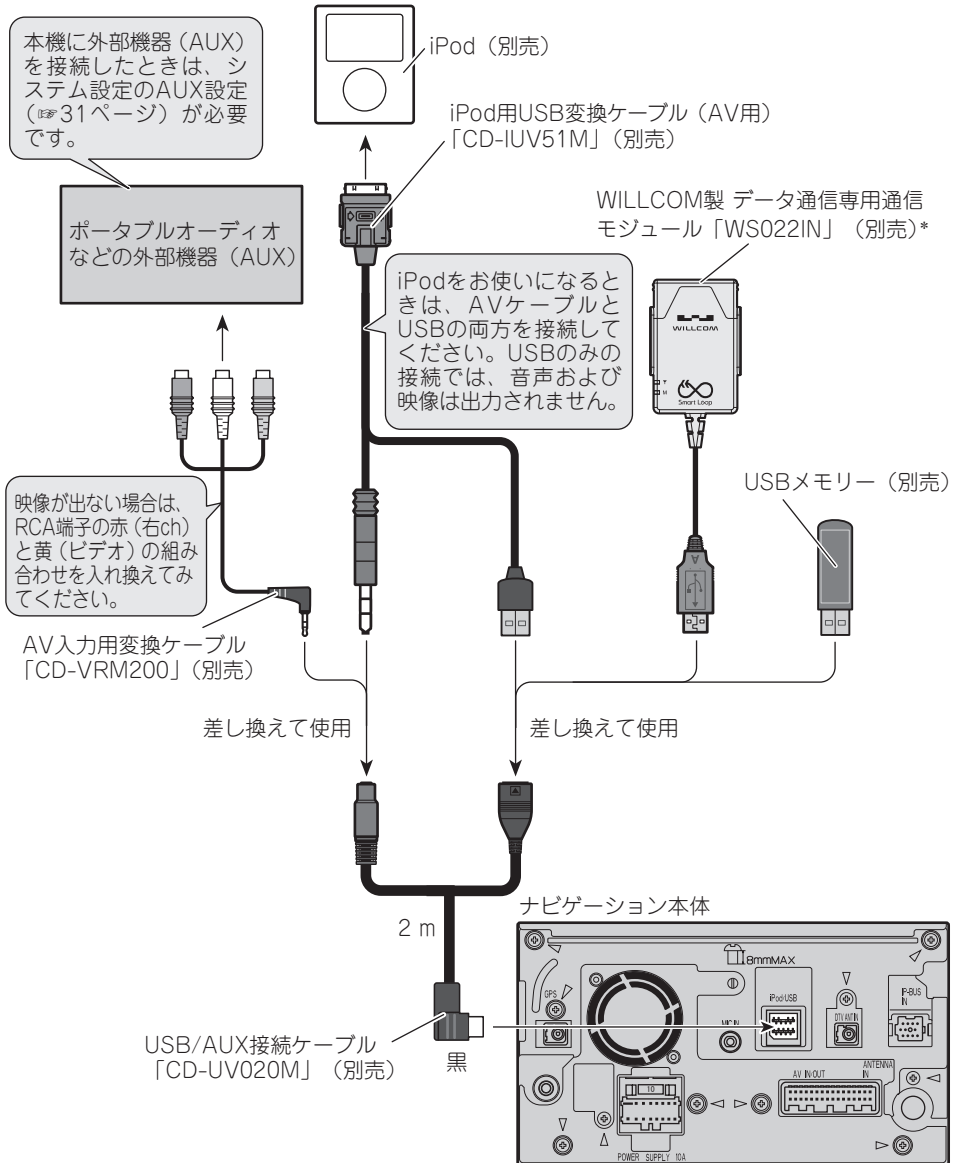
- 接続したリアモニターは、運転者が走行中に映像を見ることができない位置に設置してください。
- パイオニア製「TVM-W シリーズ」以外のモニターを接続した場合は画像が乱れる場合があります。また、フロントモニターに表示される映像と画質は異なります。



iPod/通信モジュール/USBメモリー/AUXの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

本機には、別売のiPod、外部機器（AUX）、通信モジュール、USBメモリーが接続できます。また、それぞれ手で差し換えて使えます。



メモ

* WILLCOM 製 データ通信専用通信モジュール「WS022IN」は、2013年3月28日を以って販売、新規契約を終了しております。

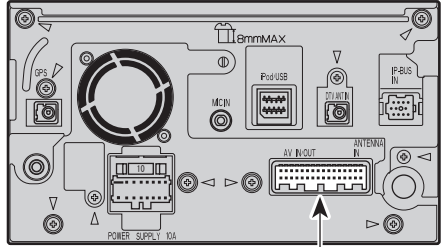


カメラの接続

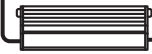
—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

本機には、別売のバックカメラユニット「ND-BC7」が接続できます。

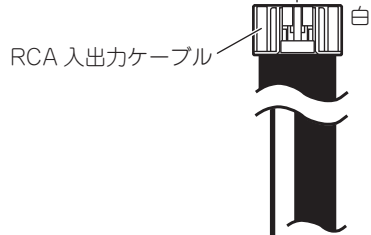
ナビゲーション本体



バックカメラユニット「ND-BC7」(別売)



映像出力



RCA 入出力ケーブル

31 cm

バックカメラ入力 (黄)

接続のしかた

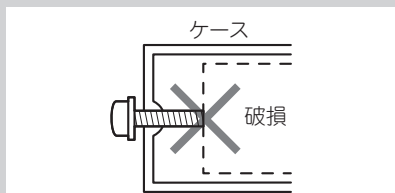
メモ

- 本機にバックカメラを接続したときは、バック信号入力線 (P. 10 ページ) の接続と、カメラ設定の【バックカメラ】と【バックカメラ極性】の設定 (P. 29 ページ) が必要です。
- 別売の映像処理対応バックカメラユニット「ND-BC30 II」を接続することもできます。「ND-BC30 II」をお使いになる場合は、「ND-BC30 II」側の操作でカメラ設定 (取付角度の調整など) を行う必要があります。詳しくは「ND-BC30 II」の取扱説明書をご覧ください。
- 別売のバックカメラユニット「ND-BC100 II」とフロントカメラユニット「ND-FC100 II」はご使用になれません。(「ND-BC30 II」に「ND-FC100 II」を組み合わせた場合もご使用になれません。)

取り付けの前に知ってほしいこと

取り付け上のご注意

- 必ず本機に付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして危険です。



取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認します。このときアンテナ類などは、受信状態のよい位置を確かめてから取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

粘着テープを貼り付ける前に

- 両面テープを貼り付けるところは、汚れをよくふきとってください。

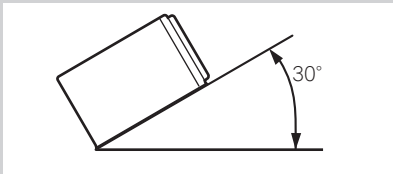
ノイズ防止のために

- フィルムアンテナの取り付けのしかたによっては、ラジオ放送に雑音が入る場合があります。フィルムアンテナは、フィルムアンテナの取り付け（※ 21 ページ）の説明に従って正しく取り付けてください。
- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - * FM/AM アンテナおよびそのアンテナコード
 それぞれのアンテナコードどうしでもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感が悪くなります。

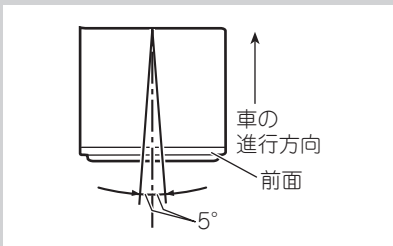
ナビゲーション本体の取り付け

取り付け上のご注意

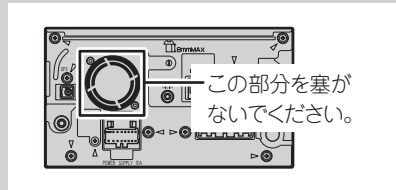
- 本機の性能を十分に発揮するために、できるだけ水平に取り付けてください。また、取り付けの車両の特性上、取り付け角度が傾いてしまう場合は、水平に対して上の傾き 30 度*以内で取り付けてください。なお、上の傾き 40 度を超える車両へは取り付けできません。
※ 上の傾き 35 度までの動作確認を行っておりますが、取り付け推奨範囲は水平に対して上の傾き 30 度以内となります。



左右の傾きは車の進行方向に対してナビゲーション本体の前面が 5 度以内の角度で取り付けてください。



- 必ず本機に付属のネジを使用して取り付けてください。付属のネジよりも長いネジを使用すると、本機内部の部品をいためることがあります。
- 放熱を妨げないために、下図の部分のを塞がないように配置してください。



取り付けのポイント

取付キットを別売しています

- 日産車に取り付ける場合は、車種や年式によって別売の日産車用取付化粧パネル「ADT-N979Ⅱ」が必要になることがありますので、販売店にご相談ください。
- ※ 本機に「ADT-N979Ⅱ」を使用する場合は、上部にすきまができるようにパネルを上方向に寄せて取り付けてください。パネルを固定する際は、左右のみテープ留めを行い、上下にはテープを貼らないでください。
- 車種や年式によっては、別売のバイオニア製取付キットを使用しないと、取り付けられないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意しておりますので、販売店にご相談ください。

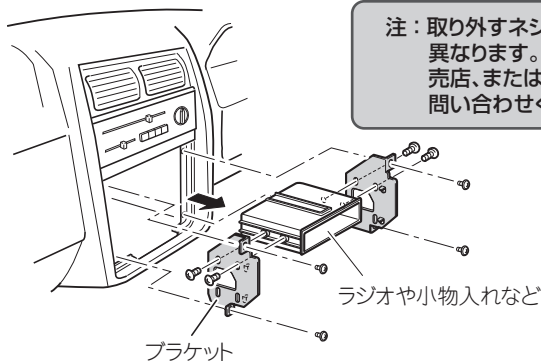


ナビゲーション本体の取り付け

つづき

1 車両のラジオ、小物入れなどを取り外す

ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを留めているブラケットを取り外します。そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。



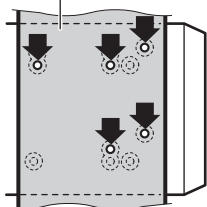
注：取り外すネジの位置などは車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店、または、最寄りのディーラーにお問い合わせください。

2 ネジ留めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。次のネジ穴のうち4カ所または3カ所合う位置があります。

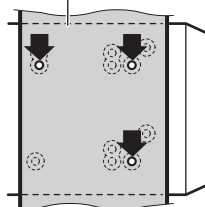
トヨタ車の場合

トヨタ車ブラケット



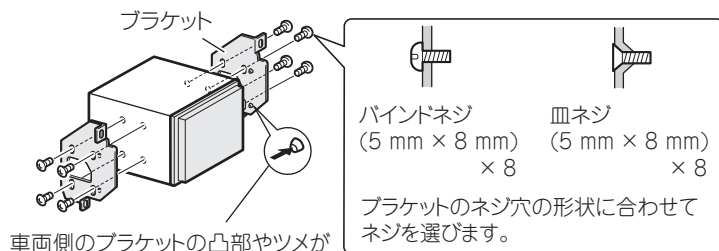
日産車の場合

日産車ブラケット



3 ブラケットを付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ4カ所（または3カ所）ずつ、付属のネジでネジ留めして、元どおり車に取り付けます。



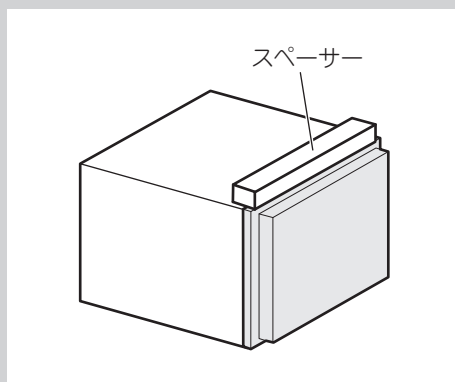
車両側のブラケットの凸部やツメが邪魔になり、浮いてしまう場合は、それらをハンマーなどでつぶす必要があります。

* 作業の際には安全に十分ご注意ください。

注：付属のネジ以外は使用しないでください。
付属のネジよりも長いネジを使用すると、
本機内部の部品をいためることがあります。

ナビゲーション本体取り付け後のご注意

ナビゲーション本体を取り付けたあと、車両との間にすきまがある場合は、ナビゲーション本体にスペーサーを貼ってすきまをふさいでください。なお、スペーサーを貼る手順は、車両によって異なります。



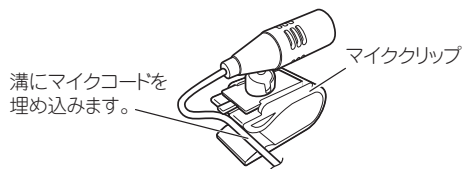
ハンズフリー用マイクの取り付け

取り付け上のご注意

ハンズフリー時に明瞭な音質を得るために、マイクはできるだけドライバーの近くに取り付けてください。また、エコー（反響音）を軽減するため、なるべく車のスピーカーから離れた位置に設置してください。

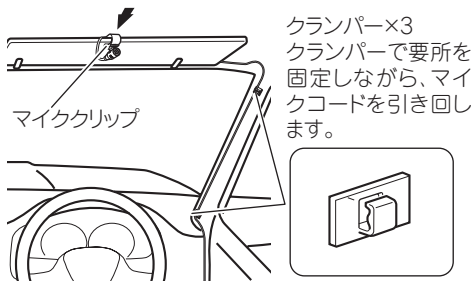
サンバイザーにはさんで取り付ける場合

1 マイククリップの溝にマイクコードを埋め込む



2 サンバイザーにマイククリップを挟み込み、マイクを取り付ける

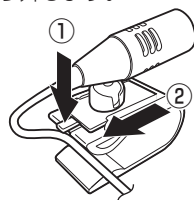
サンバイザーを上げた状態で取り付けます。サンバイザーを下げると、通話相手側へ音声が届きにくくなります。



ステアリングポストに取り付ける場合

1 マイククリップを取り外す

ステアリングポストに取り付ける場合は、マイククリップを取り外します。



2 ステアリングポストにマイクを取り付ける

ステアリングポストに付属の両面テープで貼り付けます。

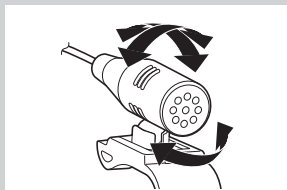


クランパー×3
クランパーで要所を固定しながら、運転操作に支障がないようにマイクコードを引き回します。



マイク角度の調節のしかた

マイクの角度は、マイククリップの可動部を矢印の方向に動かして調節します。



フィルムアンテナの取り付け

取り付け上のご注意

- 保安基準*に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく貼り付けてください。
* 保安基準とは、道路運送車両の保安基準第29条及び細目を定める告示第195条をいいます。
- アンテナは、フロントウィンドウ貼り付け専用です。フロントウィンドウ以外には取り付けられません。
- 熱線やプリントアンテナ上には貼り付けられません。ショートや発熱、性能劣化の原因になります。
- 本書では、フィルムアンテナの取り付け前にピラーを取り外すよう説明していますが、ピラーにフロントエアバッグを搭載している車両の場合は、絶対にピラーを取り外さないでください。フロントエアバッグの誤動作などの原因となり大変危険です。ピラーを取り外せずにフィルムアンテナを取り付ける方法について、詳しくは販売店にご相談ください。
- 必ずフロントウィンドウの指定の位置・寸法内に貼り付けてください。
- 車室内に取り付けるアンテナは、エアコン用モーターなどから出るノイズにより、テレビの映りが悪くなる場合がありますが、故障ではありません。
- 車種によって、取り付けられない場合があります。販売店に相談してください。
- 熱線反射ガラスや断熱ガラス、電波不透過ガラスなど、電波を通さないガラスを使用した車種の場合には、受信感度が極端に低下します。お買い上げの販売店に確認してください。
- 地上デジタルテレビ放送の電波を通さないガラスを使用した車種の場合には、別売の地上デジタルTV用アンテナ（車室外取付用）「AN-GT21 II」をお使いください。
- GPS衛星の電波を通さないガラスを使用した車種の場合には、別売のGPSアンテナ（車室外取付用）「AN-GO50」（5 m）をお使いください。

- 必ず車内の取り付け場所に、市販のテープなどでいったんフィルムアンテナとアンテナケーブルを仮留めして、エレメントとアンテナが貼り付けられることを確認してください。
- フィルムアンテナのフィルムやアンテナの裏シートをはがしたあとは、給電端子などに手を触れないでください。静電気による故障や汗や汚れなどで接触不良の原因となります。
- フィルムアンテナは折り曲げないように、取り扱いに注意してください。
- 作業場所は、風が無く、空気中にゴミ、ホコリなどが無い場所を選んでください。
- 気温が低いときやガラスがくもってしまう場合は、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチをONにしてウィンドウを暖めておいてください。
- 他のアンテナから10 cm以上離して取り付けてください。
- 指定の位置や寸法内に取り付けられないことがあります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- アンテナの余りをまとめる場合は、十分な曲げ角度（半径15 mm以上）を確保してください。
- 余ったアンテナコードをまとめて置くときは、ナビゲーション本体から30 cm以上離して置いてください。近くに設置すると、受信感度が低下する場合があります。

他のフィルムアンテナとの干渉を考慮して貼り付け位置を決めてください。

一度貼り付けると、粘着力が弱くなるため貼り直しできません。
必ずアンテナケーブルおよびフィルムアンテナを仮留めし、アンテナケーブルの引き回しなどを十分に検討してから貼り付けてください。



フィルムアンテナの取り付け

つづき

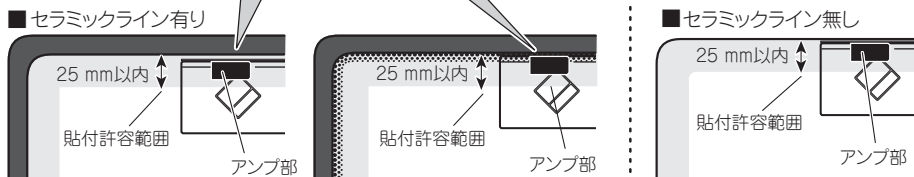
貼り付け位置について

⚠️ 必ずお守りください

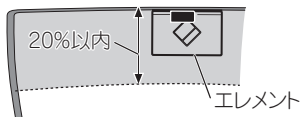
運転に安全な視野を確保し、性能を十分に発揮させるために、必ず「アンブ部の貼付許容範囲」および「エレメントの貼付許容範囲」の位置に貼り付けてください。許容範囲外に貼り付けると道路運送車両の保安基準に適合せず、車検に通らなかったり、整備不良の対象となります。

アンブ部の貼付許容範囲

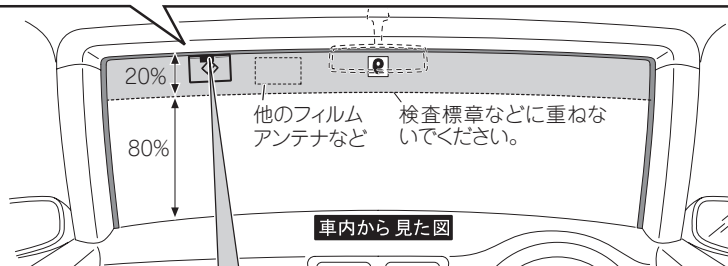
GPS/地上デジタルTV(ワンセグ)複合フィルムアンテナは、ウィンドウの黒い縁(セラミックライン)の上には貼り付けないでください。



エレメントの貼付許容範囲

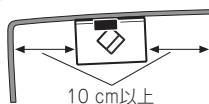


エレメント下端(透明部含む)がガラス開口部の実長の20%以内に納まるように貼る



取り付け推奨範囲について

- フロントガラスのウィンドウの黒い縁(セラミックライン)より10 cm以上離す。
- 他のアンテナより10 cm以上離す。

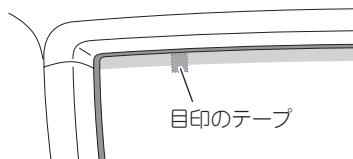


ウィンドウの黒い縁(セラミックライン)より10 cm以上離す
他のアンテナより10 cm以上離す

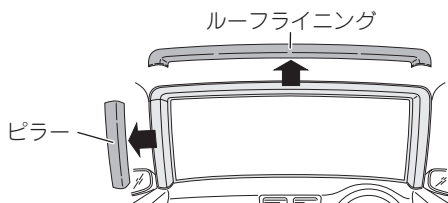
フィルムアンテナを貼り付ける

1 フィルムの仮位置を決める

フィルムアンテナの貼り付けの際、「貼り付け位置について」を参照して仮位置を決め、テープなどで目印を付けてください。



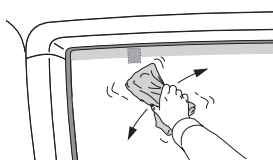
2 車内の内張り（ピラー、ルーフライニングなど）を取り外す



3 ケーブルを引き回す仮位置を決める

4 フロントウィンドウ内側の汚れ、油などを取り除く

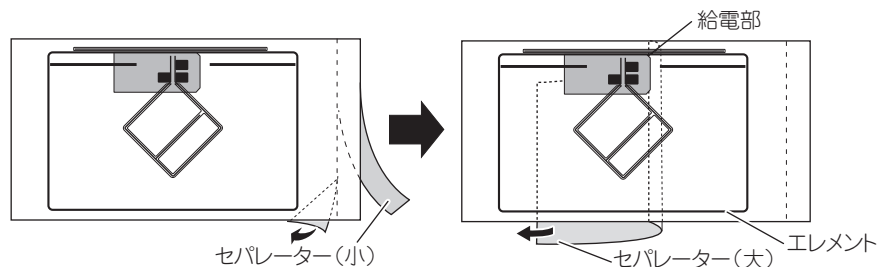
フィルムアンテナを貼り付ける場所の湿気、ホコリ、汚れ、油などを、付属のクリーナークロスで取り除いてください。



注：クリーナークロスで拭いたあとは、貼り付ける場所およびエレメントには触れないでください。

5 フィルムアンテナを貼り付ける場所を、十分に乾燥させる

6 セパレーター（小）をはがし、セパレーター（大）を半分はがす



* エレメントがセパレーター（大）と一緒にはがれる場合は、セパレーター（大）を元に戻して保護フィルムに貼り付くように強く押しつけてください。

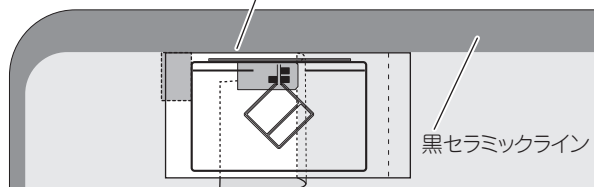
フィルムアンテナの取り付け

つづき

7 フィルムをフロントウィンドウに貼り付ける

ガラス面の目印にフィルムを合わせ、貼り付けます。

セラミックライン下端にエレメントパターンを合わせる。
(セラミックラインの上には貼り付けないでください。)



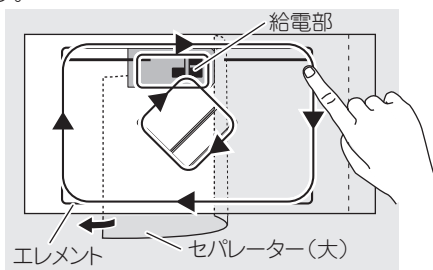
注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温くなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからフィルムを貼り付けてください。

注：気温が低いときやガラスがくもってしまう場合は、粘着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチを ON にしてウィンドウを暖めておいてください。エレメントの粘着が弱い場合、保護フィルムを剥がす際にエレメントが切れてしまうことがありますので、ご注意ください。

* ガラス面が乾いたことを確認してから貼り付けてください。ガラス面が濡れているとフィルムがガラス面に貼り付かないおそれがあります。

8 セパレーター（大）をはがす

下図のように、指でエレメントをガラス面に押しつけながらゆっくりとセパレーター（大）をはがします。



注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温くなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからエレメントを貼り付けてください。

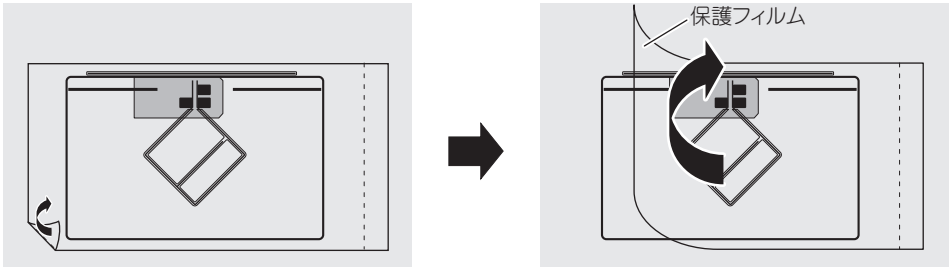
- * ガラス面が乾いたことを確認してから貼り付けてください。ガラス面が濡れているとフィルムがガラス面に貼り付かないおそれがあります。
- * エレメントがセパレーター（大）と一緒ににはがれる場合は、セパレーター（大）を元に戻して保護フィルムに貼り付くように強く押しつけてください。
- * フィルム・エレメントの糊面には触れないでください。
- * エレメントの給電部は念入りに押さえてください。

9 エLEMENT貼り付け後、約 20 分間放置する

粘着材の強度を安定させるため、ELEMENTをフロントガラスに貼り付け後は、約 20 分間放置してください。放置時間を守らずに次の手順に進むと、使用中にELEMENTがはがれる原因となる場合があります。

10 保護フィルムをゆっくりとはがす

保護フィルムはがし用ハーフカット部を持ち、ELEMENTがガラス面に貼り付いている事を確認しながら、保護フィルムをゆっくりとはがします。



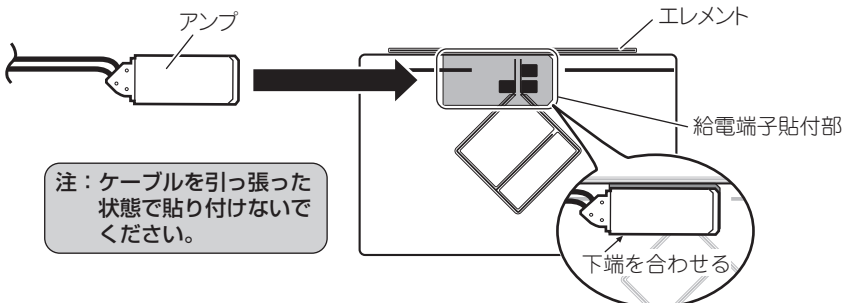
ELEMENTのみがガラス面へ貼り付きます。

注：保護フィルムをはがした後は、手順11でアンブを貼り付けるまでELEMENTの給電端子貼付部に触れないでください。

* ELEMENTが保護フィルムと一緒にはがれる場合は、保護フィルムを元に戻してガラス面に貼り付くように強く押しつけてください。

11 アンブをELEMENTに貼り付ける

アンブ保護カバーを取り外してからアンブの裏シートをはがして、ELEMENTの給電端子貼付部下端と、アンブ下端を下記のように合わせて貼り付けます。

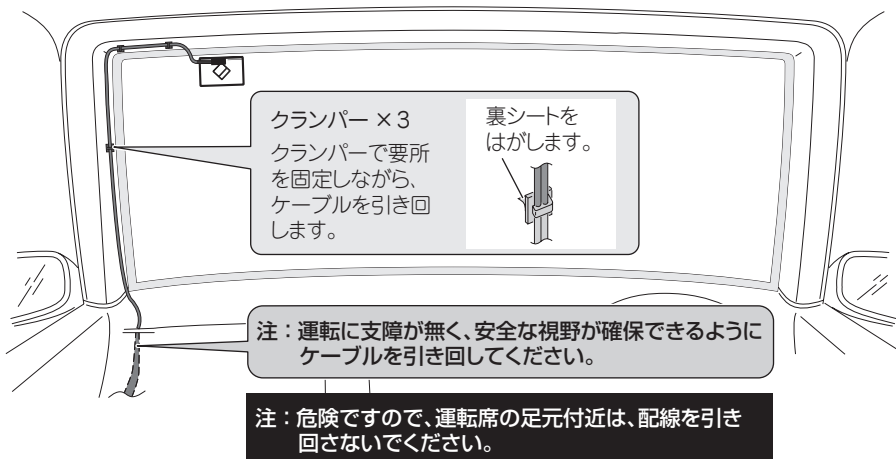


注：ケーブルを引っ張った状態で貼り付けしないでください。

フィルムアンテナの取り付け

つづき

12 ケーブルを引き回す



13 内張りを元に戻す

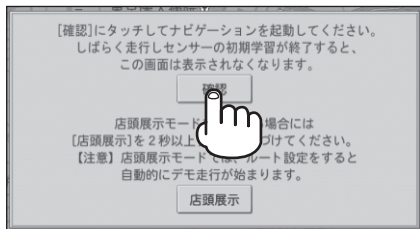
注：アンプのケーブル根元部に負荷がかからないように注意してください。

接続・取り付けの確認を行う

接続・取り付けが終わったら、本機を動作させ、接続・取り付けの確認を行ってください。

1 車のエンジンをかける

2 次の画面が表示されたら確認にタッチする

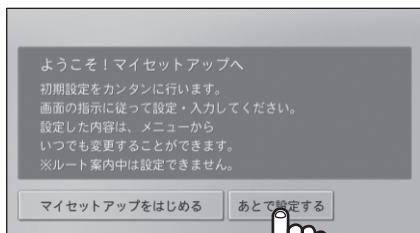


メモ

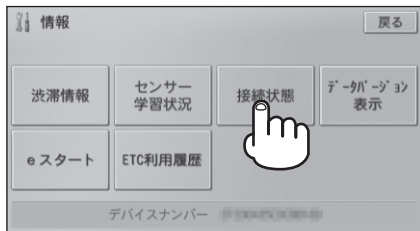
- この画面は、初期学習が完了していないときにエンジンをかけると表示されます。

注：「店頭展示」にタッチしないでください。タッチしてしまった場合は、一度車のキーを抜いてからエンジンをかけ直してください。

3 次の画面が表示されたらあとで設定するにタッチする



4 地図画面が表示されたら「メニュー」ボタンを押し、「設定—情報—接続状態」の順に操作する



5 接続状態を確認する（※次ページ）



6 接続状態を確認したら、「現在地」ボタンを押す

接続・取り付けが終わったら



接続・取り付けの確認を行う


つづき

接続状態画面の見かた

車速パルス

車速信号入力（ピンクリード線）の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば、車を走行させると“ピッ”と発信音がして、数字とバーが表示されます。数字とバーは本機が測定したパルス数をあらわしています。“ピッ”音とパルス数は速度によって変化します。車速パルスの確認は、低速（時速5 km程度）で行ってください。

GPS アンテナ

GPS アンテナの接続状態と受信状態を確認できます。正しく接続されていれば [OK]、未接続の場合には [NG] が表示されます。右側に表示されるアンテナマーク  で GPS アンテナの受信状態を確認できます。電波の受信しやすい見晴らしの良い場所で 2 米以上バーが表示されていれば良好です。

測位状態

現在の測位状態（3 次元測位 / 2 次元測位 / 未測位）が表示されます。その右側には測位に使われている衛星（橙色）と受信中の衛星（黄色）の数がイラスト表示されます。3 つ以上の衛星の電波を受信すると現在地の測位が可能になります。

GPS アンテナマークの本数と測位した衛星の数は、比例しません。

電源電圧

車のバッテリーから本機に供給されている電源電圧が表示されます。エンジンアイドリング時に 11 V ~ 15 V の範囲にないときは、電源コードの接続状態を再度確認してください。なお、表示誤差（± 0.5 V 程度）があるため、この表示は参考値です。


取り付け位置

ナビゲーション本体の取り付け状態を確認できます。必ずエンジンをかけた状態で停車して確認してください。停車時に [NG（振動）] が表示された場合は、測位の精度が悪くなります。車の振動が少ない位置にしっかりと取り付け、停車時に [OK] が表示されるのを確認してください。

イルミネーション

イルミネーション（橙 / 白リード線）の接続状態を確認できます。車のスモールライトを点灯させてください。スモールライトを点灯すると [ON]、消すと [OFF] が表示されます。

Bluetooth

Bluetooth による携帯電話との接続（ペアリング）状態が表示されます。正しく接続（ペアリング）されていれば [OK]、接続（ペアリング）されていない場合は [NG] と表示されます。右側に表示されるアンテナマーク  で本機と携帯電話間の受信強度を確認できます。

* 受信強度を確認するには、Bluetooth 設定を行い、本機と携帯電話をワイヤレス接続する必要があります。詳しくは『取扱説明書』の「Bluetooth 設定をする」(P.67)

バック信号

バック信号入力（紫 / 白リード線）の接続状態を確認できます。パーキングブレーキをかけた後、ブレーキペダルを踏んでから、シフトレバーを R（リバース）の位置から R（リバース）以外の位置にすると LOW から HIGH、または HIGH から LOW に切り換わります。

通信モジュール

通信モジュールの接続状態を確認できます。正しく接続されていれば [OK]、未接続の場合には [NG] が表示されます。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキスイッチ（若草色リード線）の接続状態を確認できます。ブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキをかけ直してください。パーキングブレーキを解除すると [OFF]、かけ直すと [ON] が表示されます。

ETC ユニット

ETC ユニットの接続状態を確認できます。必ずセットアップしてから確認してください。正しく接続されていれば [OK]、未接続の場合には [NG]、エラーがある場合はエラー番号が表示されます。

車載器番号

ETC ユニット（別売）の番号が表示されます。

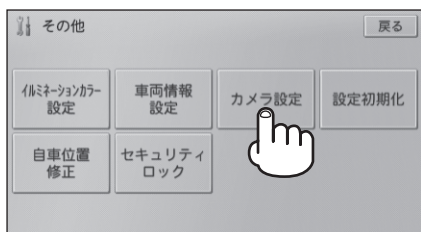


バックカメラの設定を行う

本機にバックカメラを接続した場合は、カメラ設定を行ってください。

1 ナビゲーション画面で「メニュー」ボタンを押す

2 設定→設定→その他→カメラ設定にタッチする



3 各項目を選び、設定を行う



バックカメラ

本機にバックカメラを接続したときに設定します。

ON	本機にバックカメラを接続したとき。
OFF	バックカメラを接続していないまたは一時的に使用しないとき。

バックカメラ極性

本機にバックカメラを接続したときに車のバック信号の極性に合わせて設定します。

HIGH	接続状態画面 (P. 27 ページ) で、シフトレバーをバックに切り換えたときに「バック信号」の表示が [HIGH] になる車両の場合はこちらを選びます。
LOW	接続状態画面 (P. 27 ページ) で、シフトレバーをバックに切り換えたときに「バック信号」の表示が [LOW] になる車両の場合はこちらを選びます。

4 各項目を設定したら、終了にタッチする

接続・取り付けが終わったら

サブウーファーの設定を行う

本機にサブウーファーを接続したときは、サブウーファーを固定したあと、車の窓やドアを閉めた状態でサブウーファーの設定を行ってください。

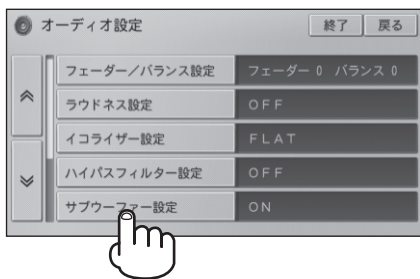
1 低音を含む音楽を再生する

2 AV ソース画面で「メニュー」ボタンを押す

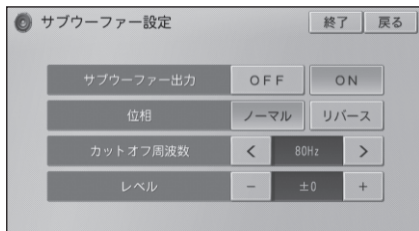
3 オーディオ設定にタッチする



4 サブウーファー設定にタッチする



5 各項目を選び、設定を行う



サブウーファー出力	ON に設定します。
位相	違和感が無く、低音の音量が大きく聞こえる方を選びます。
カットオフ周波数/レベル	適切な音質に調整します。

6 各項目を設定したら、「終了」にタッチする

システム設定を行う

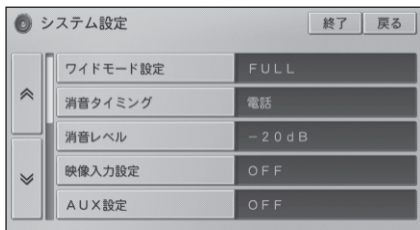
本機に外部機器を接続した場合は、システム設定を行ってください。

1 AVソース画面で「メニュー」ボタンを押す

2 システム設定にタッチする



3 ▲、▼でページ送りさせて設定する項目にタッチする



映像入力設定

本機にVTRまたは映像ソースのエクスターナルユニット（マルチDVDプレーヤーなど）を接続したときに設定します。

VTR	VTRなど、本機でコントロールしない映像機器を接続したときに設定します。
EXT	マルチDVDプレーヤーなど、本機でコントロールできる映像ソースのエクスターナルユニットを接続したときに選びます。
OFF	どちらも接続していないときに選びます。

AUX設定

本機に外部機器の音声や映像を入力するときに設定します。

ON	外部音声や映像を入力するとき。
OFF	外部音声や映像を入力しないとき。

メモ

- 他の設定項目については、『取扱説明書』の「システム設定」(P.36)をご参照ください。

4 各項目を設定したら、終了にタッチする



センサー学習のエラーメッセージ

接続確認と各種設定を完了し、走行を開始すると本機は自動的に 3D ハイブリッドセンサーの初期学習を行います。その際、つぎのようなエラーメッセージが表示されたときは、エラーの原因を取り除いてください。

<走行開始後のエラーメッセージ>

- **【車速信号線が外れました。接続を確認してください。】**
- **【車速パルス信号が異常です。接続を確認してください。】**
ピンクリード線（車速信号入力）の接続先および接続状態を確認してください。
- **【3Dハイブリッドセンサーが正常に動作していません。本体の取付け角度や向きを確認してください。取付けが正常な場合は、お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。】**
「ナビゲーション本体の取り付け（※ 17 ページ）」を参照して、取付角度が間違っていないか確認してください。取付角度が正しい場合は、内蔵センサーの故障が考えられます。販売店または修理受付窓口にご相談ください。
- **【車速パルスが接続されていません。簡易ハイブリッドで動作します。】**
ピンクリード線（車速信号入力）を接続してください。接続すると、3D ハイブリッドで初期学習をやり直します。

<その他のエラーメッセージ>

- **【測位不能になりました。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。】**
ナビゲーション本体の故障、劣化等が考えられます。販売店または修理受付窓口にご相談ください。
- **【GPS アンテナが接続されていません。接続を確認してください。】**
- **【GPS アンテナが異常です。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。】**
GPS/ 地上デジタル TV（ワンセグ）複合フィルムアンテナの接続を確認してください。正しく接続されている場合は、断線・故障・劣化等が考えられます。販売店または修理受付窓口にご相談ください。
- **【内蔵のセンサーが異常です。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。】**
内蔵のセンサーの故障が考えられます。販売店または修理受付窓口にご相談ください。
- **【取付け位置の変化を検出しました。センサーの再学習を開始します。】**
本機の取り付け位置の変化を自動で検出した事をお知らせするメッセージです。